

天理軽便鉄道（てんりけいべんてつどう）

奈良県生駒郡法隆寺村興留（国鉄法隆寺駅前）から山辺郡丹波市町川原城（天理市）を結ぶ鉄道路線を運営していた鉄道事業者である。天理教信者の旅客輸送を目的として建設されたが大阪電気軌道の路線延長に伴い買収され、現在路線の一部は近畿日本鉄道天理線となっている。

1911年の春から天理教ではのちに大正普請とよばれた本部神殿や教祖殿などの建築がはじまり、信者達はその勤労作業のため天理教本部に向かうようになった。その行程は大阪湊町から奈良駅経由で丹波市駅（天理駅）まで2時間30分前後、運賃は51銭を必要としていた。そのため途中の法隆寺駅で下車して徒歩で天理教本部に向かう人も多かったという。このような天理教の信者の旅客輸送を見込み、杉本久三郎他9名¹の発起による法隆寺駅前から山辺郡丹波市町川原城（天理市）にいたる軽便鉄道の敷設免許が1912年1月4日に下付された。そして11月27日に創立総会が開かれ、天理軽便鉄道株式会社（資本金25万円）が設立され、社長には戸尾善右衛門、専務には杉本が就任した。工事は1913年12月法隆寺側よりはじめられ、土地の売却に反対の地主に対し土地収用審査会へ申立するなど遅れはあったが、それも解決した。地形はおおむね平坦で富雄川と佐保川の架橋なども順調に工事が進み1915年1月13日に竣工し、そして2月7日より運輸営業を開始した。

開業時の成績であるが、1日平均旅客数は4.5月が467人、6月188人と目標を大きく下回ってしまった。その後旅客数は徐々に増加はしてきたが小鉄道のため発展の余地は限られており、また新法隆寺駅の乗車人員と降車人員に大きな差から見られることから、往路は天理軽便鉄道を利用し、復路は丹波市駅より奈良まで行き、乗換して関西本線で大阪湊町にいくか1914年4月に開通した大阪電気軌道により大阪上本町にいったようである。1916年に社長の戸尾は退任し、軽便鉄道補助法に基づく政府補助金を受けながら営業を続けていた。

こうしたところ大阪電気軌道は西大寺駅（後の大和西大寺駅）から南進して橿原神宮に至る、畝傍線（うねびせん）（近鉄橿原線）の計画を立てた。その路線は天理軽便鉄道の中間部を横断する形になり経営に多大な影響を及ぼすことになる。そんなことから大阪電気軌道に対し認可の条件として天理軽便鉄道に対する補償または買収を義務づけられていた。こうして両者の間で交渉が続けられ1920年10月2日に買収金額は132,000円、従業員は大阪電気軌道が引き継ぐこととして譲渡契約が結ばれた。そして10月29日の臨時株主総会で付議し可決された。譲渡申請は12月6日認可され、1921年1月1日より大阪電気軌道天理鉄道線となり、開業後6年に満たず天理軽便鉄道は解散した



新法隆寺駅 法隆寺線のがりか（昭和3年）



軽便鉄道の着く工事 富雄川のバラスを川の中まで鉄道を引き運んでいる。（大正3年5月）

上宮遺跡（かみやいせき）

この上宮遺跡は、平成3年のふるさと創世事業の一環として公園建設された際に確認された遺跡です。

奈良時代の宮殿クラスの掘立柱建物跡（官衙的な建物跡）、平城宮と同文様瓦のほか井戸跡も確認されました。特に瓦は、平城宮でつかわれた瓦と同じ版傷（版は木なので乾燥したりつぶれたりして傷が出来るが、同じ傷ということは、同じ窯で焼いているということになる）をもつものが出土しました。

そのようなことから、『続日本紀』の称徳天皇が行幸した際に利用されたとされる行宮の飽波宮と考えられるのではないかとわれています。

公園自体は「歴史・緑・水」をテーマに、地下遺構の保存に配慮する形で建設されました。



藤ノ木古墳 (ふじのきこふん)

藤ノ木古墳は、法隆寺に残る記録には、「ミササキ」「ミササキ山」と記されており、勢力を持ったと思われる物部氏、蘇我氏、平群氏等の諸説が提示されていますが、定説化したものではありません。

古墳は円墳で直径50m以上、高さ9mの円墳で、出土品から六世紀後半に築造された古墳であると考えられています。

1985年(昭和60年)の調査まで藤ノ木古墳は考古学の世界でも1985年(昭和60年)の調査まで藤ノ木古墳は考古学の世界でもほとんど注目されることはありませんでしたが、この第1次調査以降、墳丘の測量や横穴式石室内の調査が行われ、玄室内は奥壁に接近して奥壁と並行する形で、長辺を東西にして家形石棺がおかれており未盗掘でした。石棺は二上山白色凝灰岩を使った刳抜式で、箱形の身と屋根型の蓋を別々に造りあわせたものでした。石棺の全面には朱が塗布されていました。石室内には石棺北側から馬具などが発見され、又、埋葬後、攪乱を受けていない東枕にした2体の被葬者が確認され、そのそばには、鏡や刀など豪華な副葬品が確認されました。東アジアでもまれにみる優れた意匠や彫金技術を施したもので、金具などに

パルメット文など共通の文様を用い、鞍金具には竜・鳳凰・象などの禽獣文や鬼神像などを透かし彫りし、東アジアの様々な文様が集合したもので、仏教的要素・四神思想などの呪術的な世界の影響をみることができます。

出土した金銅装鞍金具などの馬具類、金銅製の冠や沓(くつ)、銀製塗金空(うつろ)丸玉やガラス小玉などの玉類などおびただしい量の副葬品は、現在 [橿原考古学研究所附属博物館](#) で常設展示されています。

なお、これら出土した副葬品の複製品(レプリカ)は「[斑鳩文化財センター](#)」で常設展示して、藤ノ木古墳は整備工事が完了し墳丘表面にコグマザサを植え、周辺には解説板やベンチが設置されるなど一新しました。

石室内に入ることにはできませんが、石室入口に設置された鉄扉のガラスしに、窓越しに室内の様子や、玄室の石棺(実物)を見ることができます。



法隆寺 夢 殿 (ゆめどの)

法隆寺東院伽藍の中心をなす八角円堂の建物。739年(天平11年)頃に創建され、1230年(寛喜2年)に大修理が加えられた。

聖徳太子の住まいであった「斑鳩の宮」の跡に、行信僧都が太子の遺徳を偲び建てたのが上宮王院、その中心が夢殿。内部には**本尊の国宝救世観音像(伝聖徳太子等身像)**とともに、行信僧都と平安時代初めに東院を修理した道詮律師の座像があり、いずれも国宝に指定されている。

聖徳太子が住まわれた「斑鳩の宮」にも夢殿と呼ばれる建物があったと伝えられ、太子はその建物の中で思索にふけり、東方から来た金人(仏)のお告げを聞いたという。『聖徳太子伝暦』

西里の町並み

法隆寺の西にある西里(現在は法隆寺西一丁目)からは縄文時代の土器や石器が出土する古くから開けた土地であった。平安後期には「寺内南倉町」「西里」などの名が現れ、中世的な門前町を形成していたようである。久安3年(1147)には法隆寺南大門前の道幅を広げるなど、法隆寺と龍田とを結ぶ道の拡幅工事が進められている。



江戸時代に入り、慶長6年(1601)龍田藩(片桐且元)領となり、寛永15年(1638)から幕府領となり明治を迎える。

西里は法隆寺の西大門前の町並みで、東里とともに法隆寺を支える人々の生活する集落であって、西里には法隆寺作りに携わった大工が住んでいたらしい。今、法隆寺西大門から西一直線に200mばかり、幅3m程の細い道に沿って両側に土塀と広大で重厚な民家の建物が続く。勿論武家屋敷でもなければ、農村集落でもない特殊な集落形態を保った町並みである。でもこの町並みを歩いていると、不思議に安らぎを感じるのは白漆喰で塗り固めた土塀でなく、暖ったか味のある土の色のためだろうか。



富雄川・斑鳩の里／軽便鉄道跡&法隆寺・斑鳩文化財センター見学

- 日時 : 2015年10月29日(木) 10時
集合 : JR法隆寺駅南口
持ち物 : 飲物、観察用具、雨具、弁当は不要
雨天判断 : 前日に方針決定、連絡メールにご注意ください
行程 : JR法隆寺駅南口 ⇒ 天理軽便鉄道軌道跡 ⇒ 富雄川安富橋 ⇒ 上宮遺跡公園 ⇒ 昼食(インド料理) ⇒ 法隆寺(夢殿特別展拝観) ⇒ 西里 ⇒ 藤ノ木古墳 ⇒ 斑鳩文化財センター(特別展見学) ⇒ 斑鳩町役場バス停 → バスにて → JR王寺駅 解散

今回は富雄川が大和川に流入する直前の地域、聖徳太子ゆかりの斑鳩の里を散策します(古代の富雄川は現在地より少し東で佐保川に合流後、大和川に合流していたそうです)

○天理軽便鉄道軌道敷跡

法隆寺駅から天理まで、天理教信者の輸送を目的として敷設された天理軽便鉄道(1915年営業開始)。1921年に大阪電気軌道が西大寺から南進、橿原神宮へ至る畝傍線(後の近鉄橿原線)建設に伴い買収され、大阪電気軌道天理鉄道線となる。

その後平端・天理間は近鉄天理線に。平端・法隆寺間は1945年運休、1952年廃止となるまで、近畿日本鉄道法隆寺線として細々と運行された。

○上宮(かみや)遺跡公園

奈良時代の大型掘立柱建物群、平城宮と同じ范型の軒瓦出土、聖徳太子の飽波葦垣宮に関連した施設か?

○今回はレストランで昼食を ⇒ インド料理「ペジャ」(個人負担です)

定食B: 本日のインドカレーとナン 795円、

定食A: インドカレーとナンにライスとタンドリーチキン等がプラスされて1,000円

○法隆寺東院伽藍・夢殿(国宝救世観音像特区别開扉)

拝観料 300円(科負担)

○西里(斑鳩町法隆寺西)

法隆寺を支えた宮大工集団の本拠地、土塀や蔵の町並み(西岡棟梁の甥が居住)

○斑鳩文化財センター秋季特別展「藤ノ木古墳と大和の横穴式石室」

入場料 300円(科負担)

○バス停(斑鳩町役場)発 王寺行 15分に1本(12、27、42、57分)あります